

2 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホームかわかみ

作成日 平成 26年 3月 20日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	No. 53	構いたがりの入居者が、他者への介入で不穏を招くケースがあるので職員の声掛けのタイミングを考える。	生活歴により、これまでの日常生活は十人十色である事を職員一人一人が念頭に入れて無理なく本人判断を優先する。	職員優位にならないよう、ホールでひとまとめでお世話すると言う考えは止め、入居者別の言葉かけ、役割、空間を与えて差し上げる支援を続ける。	随時
2	No. 13	高齢の職員が多く就業している事から、研修参加等が幅広く行えていない。	シフト上、参加可能であれば様々な研修や勉強会に出て交流を深めてもらう。	立ち止った情報の介護でなく、人間相手である以上は発展性のある介護を目指す必要性をより勉強会や職員会議等で呼びかけていく。研修報告等の情報共有は引き続き行っていく。	1 年
3	No. 30	入居者の入替から伴う様々な診療科のかかりつけ医と関わりを持つことになり、情報が漏れ落ちる事があったり、家族同行の場合の日程の把握等をより細かく共有する必要がある。	家族の要望、本人の要望を踏まえた往診、受診の大体の診療情報を捉えて記録に残していく。定期往診の場合は、スタッフが往診の間隔の期間内での変化を判りやすいように事務所に報告する等工夫をしていく。	記録簿の活用をしたり、必要以上に受診したがる入居者における統一した受け答えの仕方等、スタッフ間での話し合いを細かくしていく。	随時
4	No. 49	日常的な外出支援は良くできているので、継続的に場所もこれまで以上に増やしていきたい。	個々に対応は出来ている。お互いの相性等により、同行できかねる入居者もいるので、目的地の決定や同乗者も細心の注意を払っている。本人が訴えを言葉に出来ない場合も、表情の変化に留意して買い物の付き添いの合意を得たり食事に出たり本人判断を尊重する。	特に、家族の要望等でホーム入所を知られたくない等の事情を抱えている方もいるので、社用車ではない普通車での外出や社会との接触を違和感なく出来るよう外出先での声掛け等、気を付けていく。	随時

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。